



応募用紙 2

応募者名 (トモ)

～舌で操作するセンサースイッチを眼鏡に取り付けて、使いやすい位置に固定する方法～

かいぜんまえ 改善前 かいぜんまえ 【改善前にはどのようなことでお困りでしたか】

寝たきりで、手指が動かせないため、パソコンやナースコールを舌で操作できるセンサーを業者に作ってもらったが、それをどこにどのように取り付けたらいいか、困っていた。

かいぜんまえ 改善前 かいぜん 【改善する時に工夫した^{とき}こと、^{かんが}考えたことはどのようなことですか。】

センサーと針金を一緒にして形が自由に変えられるようにしたものを業者に作ってもらい、ビニールテープで顔に貼ったが、顔の皮脂でテープがはがれてしまうし、貼ったりはがしたりの手間もある。また、針金の形が変わるので、貼る度にセンサーの位置決めが難しかった。

かいぜん 改善した内容

- ①フレームの太い眼鏡に棒を付けて、センサーにクリップをつけた物を棒に挟んで使ってみたが、体位交換で顔が横向きになった時に棒が枕に当たって眼鏡が壊れてしまった。
- ②センサーを頻繁に使っていると、唾液で湿り、先端のセンサー部分だけでなく皮膚に近い針金部分でも反応して誤作動するので、センサーをストローの中に通した。位置調整がしやすくなるよう、曲がるストローを使った。
- ③グルーガンを使って、ストローがはめ外しできるような形に成型したものを眼鏡につけた。グルーガンの材質が滑り止めになって良かったが、眼鏡の材質によってはグルーガンがつかない。眼鏡とグルーガンの間に皮脂が入って剥がれたこともあった。また、ストローをはめ外しをするために、大きすぎず小さすぎずの形に成型するのが難しい。
- ④フレームの細い眼鏡に変え、髪をとめるクリップでストローと眼鏡をまとめて挟んだ。使っているとストローが動いてしまうと分かったので、指サックを切り開いた物をストローに接着剤で貼って滑り止めにした。また、センサーがストローから抜けてしまうことを防ぐために、ストローに穴をあけて針金を穴に通して動かないようにした。





応募用紙 3

応募者名 (トモ)

改善後【改善後、楽になったことや良かったことはどのようなところですか】

センサーが眼鏡に固定できて、舌での操作がしやすくなった。

顔を拭いたり着替えたりする時には眼鏡を外し、終わったら眼鏡をかけるだけなので、センサーの位置決めにかかる時間が減った。

改善後の様子がわかる絵や写真などがあれば貼り付けてください。

①眼鏡に棒をつけて、クリップで挟んだ。



②センサーに針金をつけて自由に形が作れるようにした物を、業者さんに作ってもらった。誤作動を防ぐため、曲がるストローに通した。



③フレームの太い眼鏡に、ストローがはめ外しできるようなグルーガンで成型した物をつけた。



④フレームの細い眼鏡に、髪をとめるクリップでストローを挟んだ。指サックを切り開いてストローに接着剤でつけた。



※今後改善できるといいこと

- ・体位交換などで眼鏡のつるに負担がかかると眼鏡が壊れること。
- ・長く使っているとストローがふにゃふにゃになってしまうこと。
- ・髪をとめるクリップの挟む部分が弱くて折れてしまうこと。

